

これまでの中心市街地活性化の取り組みの総括

①第1期基本計画(平成20年7月～平成26年3月)

- 旧法から継続されてきた再開発事業等の完了
- りんご並木周辺の商業施設空間の整備や駐車場整備の完了
- 環境配慮型住宅ニーズの拡大

②第2期基本計画(平成26年4月～平成31年3月)

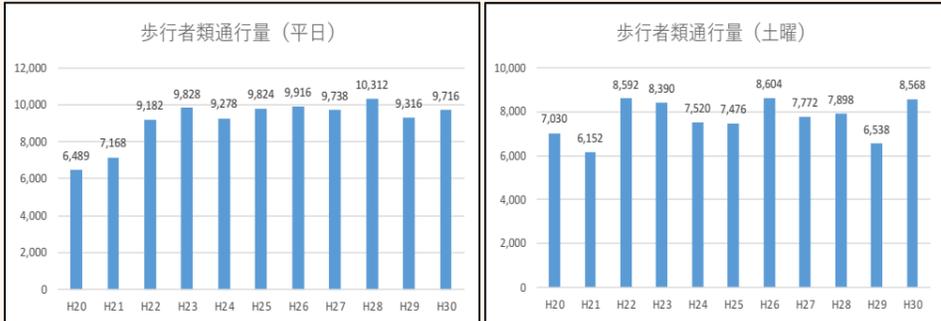
- 飯田動物園の改修とりんご並木周辺の整備完了における来街者の増加
- イベントの充実によるまちの求心力の推進。りんご並木まちづくりネットワークを始めとする様々な担い手や助っ人の結集
- 中心市街地の商店や飲食店が共同事業を展開するなどの変化

③中心市街地における新たな変化

- 中心市街地関連地区による将来像づくりの検討(橋北、橋南)と、具体的な取り組みの動きが開始(羽場、丸山、東野)
- リニア長野県駅設置に向けた動きと拠点集約連携型都市構造における中心拠点の位置づけ。

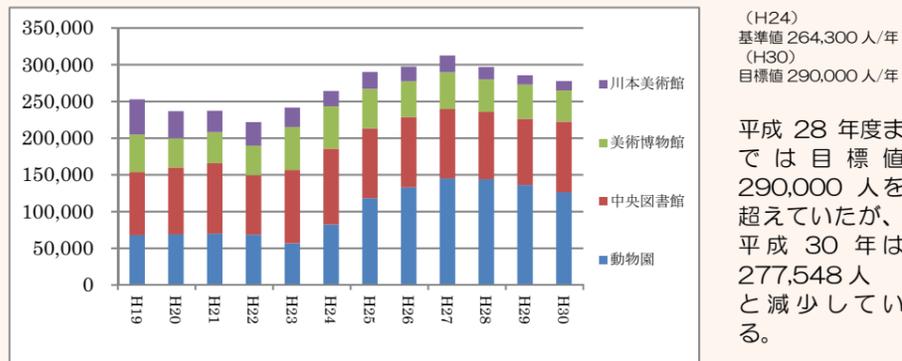
数値目標の達成状況

目標指標1: 歩行者・自転車通行量(平日・土曜日)

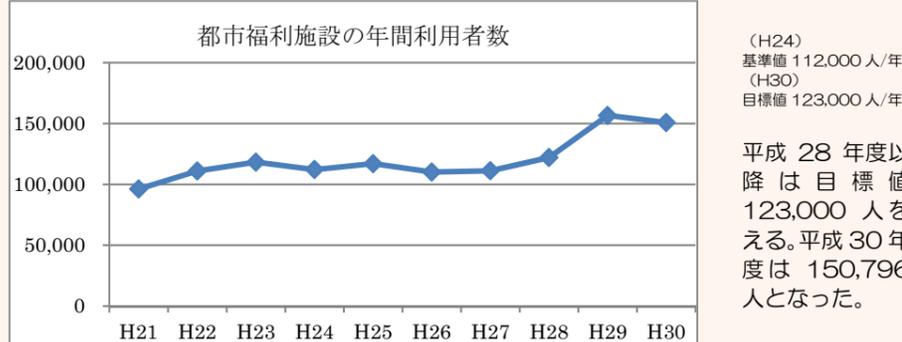


(平日)平成28年は目標値10,300人を上回る結果となったが、30年は9,716人と減少した。  
(休日)平成26年は目標値8,600人を上回る結果となったが、30年は8,568人と一歩届かず。

目標指標2: 文化・交流施設の利用者数(年間)



目標指標3: 都市福利施設の利用者数(年間)



中心市街地の現状

H31.3 末時点

①市街地の人口減少、少子高齢化と地域力の衰退

・中心市街地の人口が年々減少しており、さらに世帯数までもが減少傾向となっている。また高齢化率も飯田市全体と比較してもかなり高い数値となっている。

②まちなか商店街の高齢化と衰退、魅力低下、新たな動き

・ピアゴの閉店もあり、中心市街地の商業活力は減少している。まちなかの商店街も店主の高齢化などにより空き店舗が増加しており衰退傾向となっている一方で、商店街や飲食店におけるまちなか回遊事業などの取り組みが生まれ、成長している。

③りんご並木・動物園等の利用者増加、多様で効果的な事業展開

・りんご並木周辺や動物園、文化・交流施設(中央図書館、飯田市公民館)の来街者や利用者が増加している。賑わいはまちなか全体までは至っていないが、多様な組織・団体が活動しており、年間通じた各種イベントには毎回多くの来街者が訪れている。

中心市街地の課題

課題1 りんご並木を軸とした中心市街地全体への活性化への波及

・りんご並木を中心とした整備や商業集積により、利用者は増加しているが、中心市街地全体への恒常性や回遊性には至っていないことから、滞留と回遊を生み出す整備・活用が必要である。

課題2 都市福利施設の充実による第3の居場所づくり、多世代交流の推進

・市民活動や民間事業により賑わいが創出され、多世代交流の場として、第3の居場所づくりが求められていることから、公民協働による事業の推進と市民活動の支援が重要である。

課題3 地区と市民・各種団体による空き家・空き店舗活用の実行組織・仕組みづくり

・空き家・空き店舗活用の実行組織・仕組みづくりの構築が求められていることから、新たなライフスタイルに適應したまちなか環境整備が重要となっている。

課題4 丘のまちの歴史資源を活かしたまちなか回遊性の創出

・リニア時代を踏まえ、来訪者が魅力を感じ、来訪・滞在・滞留を生み出す街なかの資源の磨き上げと、環境にやさしい交通システムの構築が重要である。

飯田丘のまちアクション

みんなの10年行動計画(2019～2028)

中心市街地の活性化を更に大きくする取り組み

○中心市街地3地区の基本構想の将来イメージ

〈橋北地区〉  
誰もが安心して暮らせる 春草を生んだ歴史と文化の香り高い きらめくまち橋北

〈橋南地区〉  
中心市街地・橋南は城下町の歴史や文化・りんご並木とともに生き続ける

〈東野地区〉  
桜並木を大切に、歴史と文化を守る、人にやさしいまち・東野

○地区の将来未構想からひろがる10年後(リニア時代)の「丘のまち」の姿

みんなで創る、みんなのステージ、丘のまち  
-集う・語り合う・表現する-  
飯田らしさをリニア時代に私たちが創っていく

○中心市街地関係5地区、事業者、団体がともに取り組む事業

- ①美しく、居心地の良い創造のまちづくり(空き家・空き店舗活用)
- ②笑顔溢れる交流機会づくり(多世代交流)
- ③歩き、巡りたくなるまちづくり(回遊性創出・活用・整備)

共創と協働

実行の支援

第3期飯田市中心市街地活性化基本計画

【テーマ】 飯田 美しき町  
魅力的な丘のまちの形成

～各地区基本構想による新たな地域からの未来づくりへの挑戦～

【計画期間】 2020年7月～2026年3月末(5年9ヶ月)

【計画区域】 148.4ha 【推進事業】 29事業

中心(市街地)拠点の位置づけ(役割)

いいだ未来デザイン2028(飯田市総合計画)

○戦略計画 基本目標2「飯田市への人の流れをつくる」  
リニア中央新幹線長野県駅を見据えたまちづくりにおける、中心拠点としての中心市街地の魅力づくりを推進

いいだ山里街づくり推進計画(飯田市版立地適正化計画)

○中心拠点(中心市街地)の都市機能集積を維持活用し、機能のブラッシュアップにより求心力を向上

リニア将来ビジョン戦略的地域づくり

- 田園型の学術研究都市づくり
- 自動運転システムを活用した2次交通システムの検討

豊かなまちの暮らしの実現

2027 社会経済動向  
(中心市街地活性化のプラス効果を生み出す動き)  
○リニアの開通  
○三遠南信開通

期待される交流人口の増加

全市民のための拠点づくり

〈基本理念〉 「飯田 美しき町」  
**魅力的な丘のまちの形成**  
 (人) (中心拠点) (基盤づくり)

リニア中央新幹線、三遠南信自動車道の全通がもたらす大交流時代。引き続き人口減少、少子化、高齢化を見据えつつ、各地区基本構想による新たな地域からの未来づくりへの挑戦を契機に、これまで築き上げられた中心市街地（中心拠点）が持つ「資源や環境」の一つ一つに磨きをかけるランドスケープデザインの視点により、美しく、居心地の良い暮らしと交流・学びの空間の実現に向けて、地区、関係機関の共創力を発揮しながら、取り組みます。

基本的な方針

中心市街地の活性化の目標

目標指数・目標値

認定基本計画で推進する事業（29事業）

1  
美しき丘のまちの賑わい風景づくり

美しい丘のまちのデザインづくり

桜並木整備事業や春草通り活用事業等により、既存の資源と美しい景観や空間で結ぶことで、相乗効果を生み出し、中心市街地全体の活性化を目指します。

課題1の取り組み

歩行者・自転車通行量（休日）

項目	値
基準値（H30年度）	9,400
目標値（R7年度）	10,400

※毎年10月に行う歩行者・自転車通行量調査に基づく7ヶ所の歩行者・自転車通行量の合計（土曜日：人/日）

区分	推進事業の名称	実施主体
丘のまちのデザイン	1.桜並木整備事業	まちづくり委員会 民間事業者 飯田市
	2.春草通り活用事業	
	3.まちのデザイン研究事業	
	4.旧ピアゴ他駅周辺低・未利用地活用研究事業	
丘のまちの居場所・交流空間づくり	1.多世代交流拠点事業	まちづくり委員会 民間事業者 飯田市
	2.丘のまち情報交流サロン事業	
	3.高校生と丘のまちを繋ぐ事業	
	4.子育て世代包括支援事業	
	5.健康福祉拠点活用事業	
	6.ライフスタイルの低炭素化事業	
丘のまちの新たな価値創造、まちの元気づくり	1.桜並木活用事業	まちづくり委員会 民間事業者 団体等 飯田市
	2.緑と花のネットワークづくり事業	
	3.橋北まるごと博物館事業	
	4.りんご並木活性化推進事業	
	5.地産・地消促進事業	
	6.まちなか起業推進事業	
	7.地域ブランド発信事業	
	8.ソサエティ5.0社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業	
	9.丘のまち回遊促進事業	
	10.交流人口・関係人口増大支援事業	
	11.まちなか MICE 推進事業	
	12.商業的・文化的イベント事業	
	13.旧ピアゴ商業施設等整備事業	
丘のまちの暮らしの創造	1.地区空き家バンク連携事業	まちづくり委員会 民間事業者 団体等 飯田市
	2.セカンドオフィス、セカンドハウス等誘導事業	
	3.機能型・多世代向け住宅づくりの研究	
	4.空き家・空き店舗活用の実行組織・仕組みづくり	
丘のまちの歩き、巡りたくなる交通・社会基盤づくり	1.丘のまちミュージアム活用事業	まちづくり委員会 民間事業者 飯田市
	2.環境にやさしい交通社会形成事業	

2  
多世代の連携と共創による魅力づくり

丘のまちの居場所・交流空間づくり

多世代交流拠点や健康福祉拠点等により、第3の居場所を創出し、多様な主体が連携し、公民協働の活動を共に行うことで、丘のまちの魅力向上を目指します。

課題2の取り組み

都市福利施設利用者数（年間）

項目	値
基準値（H30年度）	209,000
目標値（R7年度）	214,800

※飯田市公民館、橋北公民館、橋南公民館、東野公民館、りんご庁舎、カープス、(株)なみき、ウェルネスタウン丘の上、おしゃべりサラダの年間利用者数

官民の連携数（年間）※補完指標

項目	値
目標値（R7年度）	48

※推進事業において官民が連携した年間の総数

3  
居心地の良い暮らしが息づくまちづくり

丘のまちの快適な暮らしの創造

空き家・空き店舗の活用や仕組みづくりを通じて、若者が働く場や居住環境の整備等を推進し、多世代が安心して暮らせる居住環境づくりを目指します。

課題3の取り組み

新規出店数（計画期間内）

項目	値
基準値（H30年度）	3
目標値（R7年度）	24

※計画期間内における総数（R2-R7）

4  
リニア時代に向けた求心力のあるまちづくり

丘のまちの新たな価値創造

歴史資源や既存資源の活用事業により、新たな価値を創造し、巡りたくなる交通システムの構築により、中心市街地全体の求心力と滞在の創出を目指します。

課題4の取り組み

文化・交流施設利用者数（年間）

項目	値
基準値（H30年度）	284,000
目標値（R7年度）	299,600

※川本人形美術館、飯田美術博物館、飯田市中心図書館、飯田市立動物園、エコハウス、旧飯田測候所、丘のまち交流サロンの年間利用者数